

序

基質特異性拡張型 β -ラクタマーゼ (extended spectrum β -lactamase : ESBL) 産生菌は数ある耐性菌の中で特に最近、注目を集めています。その理由としては、まずわが国でも多くの患者から分離されるようになってきたことが挙げられます。耐性菌といえばこれまでメチシリン耐性黄色ブドウ球菌 (MRSA) が最も多く分離されてきたわけですが、現在では MRSA と肩を並べる程、増加してきています。また ESBL 産生菌は外来患者から分離されることも少なくありません。すなわち、院内だけでなく市中の一般の人々にとっても感染リスクがある耐性菌になっており、保菌者も多数存在していると思われます。

このように ESBL 産生菌の問題が深刻になってきている状況において、ESBL 産生菌をどのように検査を行って確実に診断するか、適切な治療としてどのような抗菌薬の選択が考えられるか、また、有効な感染対策とはどのようなものかといった点について、医療現場からしばしば疑問が投げかけられるようになってきました。そこで、これらの疑問に対して適切に答えられるような書籍を目指して、各領域の専門の先生に詳しく解説をしていただきました。本書は診断・治療・感染対策とそれぞれの点において充実した内容となっており、医療や介護関係者に広く活用していただければ幸いです。

2017年8月

東京医科大学微生物学分野主任教授
東京医科大学茨城医療センター感染制御部部长
松本哲哉